



終業式が1週間伸びたので、再び筆を執ることになりました。

印象に残っている生徒パート2です。

1・3年時に担任をしたS君。

担任であり、所属するソフトテニス部の顧問でもあったので、かなり深い関係性を作っていた男子生徒でした。

1年次の面談の時には一度も口にしなかったのに、3年になって最初の二者面談時に初めて医者を目指したいと言いました。実はS君、小学5年生の時に父さんを亡くし、以来お母さんが一人で頑張って育ててきた生徒でした。練習試合の時には必ずお母さんが送迎して応援してくれていたもので、総体直前の際にお母さんと話をすることができました。「とても優しい子です。私が疲れて帰ってくると洗濯物を取り入れてきれいにたたんでくれています。洗い物も僕がするから先に寝たら？」と言ってくれます。」

確かに学校生活の様子を見ても、人の嫌がるようなことをすることはなく、人当たりの優しい生徒でした。しかし、残念ながら成績の方は医学科を目指すにはかなり足りない。6月マーク模試では460点くらいでした（医学科なら700点後半は必要）。

「お母さん、長い戦いになると思いますよ。」

私が心配したのは家計が持つか？という事でした。早くて2浪か3浪か。1浪当たり200万位考えねば。

お母さんは、「寂しい思いをさせたからできる限り応援したい」とのこと。

現役時のセンター試験は560点くらい。100点伸ばしたのは立派でしたが、当然合格の可能性はない。センター試験後の三者面談では、あくまで目標は医学科、合格できるところを受験するのではなく、必ず来年は合格しに来るという思いで医学科に行ってくれと送り出しました。

1浪目のセンター試験は670点くらい。さらに100点以上伸ばしましたがまだ足りません。後に予備校の方と話をしたところ、他の学科に変える意思は全く示さなかったらしい。電話で話をしたら、「来年で決めます。もう一度チャレンジして、届かないようなら学部を変えます。」

2浪目、何とか700点に到達したがまだ足りない。連絡は途絶えていたものの、予備校を通じて成績と出願校、結果は手元に届き、医学科を受けまくって不合格だったことを知りました。

3浪目、730点位取っていましたが、残念ながら合格を手にすることはできませんでした。そして私は日南高校へ転勤となる。

4浪目の2月、久しぶりに私の携帯に着信がありました。丁度タイヨーの駐車場を出ようとしていたところでした。

「先生、合格できました。産業医科大です。」

お母さんとも話をしました。「先生には自分で連絡するから絶対に先にするなと言われました」と聞かされました。

正直ここまで貫き通すとは思いませんでした。高校卒業から4年間、何度心が折れそうになっただろうかと思うと、目頭が熱くなってきました。

最後にS君が言いました。「先生、病気になったら僕のところに来てください。」

どうやら我が教え子たちは私の病気を心待ちにしているらしい。

月	日	曜	行事予定（3年に関するもののみ）	朝	夕	備考
8	19	水	始業の日・登校指導・水曜④⑤⑥の授業	×	×	8：15校門通過
	20	木	特編授業・登校指導	○	×	7：25校門通過
	21	金	特編授業・オープンスクール・全統マーク模試	○	×	7：25校門通過
	22	土	全統マーク模試 7：30開始			
	23	日	英検二次			
	24	月	特編授業	○	×	7：25校門通過
	25	火	特編授業	○	×	7：25校門通過
	26	水	特編授業	○	×	7：25校門通過
	27	木	特編授業	○	×	7：25校門通過
	28	金	特編授業	○	×	7：25校門通過
	29	土				
	30	日	数学検定			
	31	月	特編授業・牛肉豚肉弁当の日	×	×	8：15校門通過
	1	火	EX祭体育の部予行	×	×	8：15校門通過